

新春法政談

朋あり遠方より来る また楽しからずや

出席者

松永 怜一さん(第9代監督)
(財団法人日本オリンピック委員会名誉委員)

五明 公男さん(第10代監督)
(法政大学スポーツ健康学部教授)

山中 正竹さん(第14代監督)
(法政大学企画・戦略本部特任教授)

金光 興二さん(第15代監督)
(法政大学理工学部教授)

歴代野球部監督 法政スポーツを語る

夢と希望と勇気を
藤田イズムの神髄で

五明 本日は、世界で活躍された実績のある方が野球部の松永さん、山中さんと、金光監督に加わっていただき、新春座談会を進めていきたいと思います。

松永 本学の卒業生約40万人の校友に夢と希望と勇気を与えるものが体育会活動だと思っています。野球を中心として、これからの法政のスポーツは、どうあるべきかと言ったことなどについて、お話しができればと思います。

金光監督は昨年の野球部の総括をお願いします。

金光 一昨年の春は日本一、昨年は春5位、秋は3位という結果でした。振り返ってみますと、やはりメンタル的な部分の弱さであると感じております。ここ一番の弱さが昨年1年を通じて非常に大きな反省材料として残りました。

チームを作っていく上で、ここ一番で土壇場に強いチームをどのように作っていくかを大きな課題の一つととらえてやってきました。

五明 松永さん、神宮球場に観戦で出向かれていますか。

松永 一般学生に感動を与えるのはスポーツですから、そういう校風をつくっていく、改革していく方策の議論を聞かせなければいけないのではないかと思います。私は今から45年前の昭和40年に監督を拝命しまして、それが第9代です。いま金光君は第15代ですね。私が40年に

物足りなさを感じた昨年の法政大学のスポーツ。春秋の六大学野球の成績は全国の校友の注視の的です。その活躍は全国の校友に「夢」「感動」「勇気」を与えその影響力は想像以上に大きく、また全国の高校生に与える宣伝効果も無視出来ない。そこで、野球部監督として過去に素晴らしい実績を残された3人と現監督の4人で昨年末の野球部、今年の野球部、今後の法政の野球部についてその存在価値、役割、改革等について大いに語っていただいた。冒頭、岩部会長(写真右)の挨拶があった。

就任してすぐ優勝して、優勝回数は11回目ですから、9、15代の45年の間に32回、優勝しているんです。これは驚異的なハイペースです。

これは選手の頑張りもあることながら、藤田信男先生の対抗意識の高揚と法政野球の神髄が一つのポリシーになって、今日まで「名選手よりも人間を育てよう」という指導理念の下にみんなやっていた結果、43回の優勝につながっていると思います。

人生を振り返ったときに、自分があるのは法政のおかげだということ、私は法政の復活、発展に自分でやれることはやってみたいという気持ちでやっています。

はつきり言えることは軍色を払拭したこと。それは藤田先生ご自身が米国に渡って勉強されて、ほかの学校がうらやましがっている状態のなかで野球に専念できたのです。

勝負は1点の差
明暗を決める

松永 縦割りの社会を払拭する改革。だから山中君なんかも1年生から使いました。田淵君でも何でもそうです。昔、六大学というのは早稲田を筆頭に、1年生からユニフォームを着て試合に出るところはともかくも考えられなかった。

五明 山中さん、今後の野球部について、ご意見がありましたらお願いします。立場上いろいろあると思います。

山中 スポーツの素晴らしさとかスポーツの持つ意

義、スポーツをさらに発展させていくために何があるのか、すべての学校がそういう方向に進んでいる。

それで果たして十分なのかどうか。また、それをさらに強化やスポーツのよさを伝える制度にしていくのが我々の責務だと思っています。監督は監督の、OB会はOB会の立場で考えなければいけないことだと思っています。

オリンピック、WBC、昨年夏の第5回世界大学選手権しかり、そのように雌雄を決する最高位の試合は1点差の試合になるのは当たり前で、優勝するためにはそれをどう勝ち抜いていくかを考える



松永 怜一さん

40万人の校友の母校愛で「ボレンズの輪で輝く希望」



五明公男さん

るチームでない優勝はない。そのための練習を毎日、あの暑い中とか寒い中、あるいは長時間かけてやっているわけです。

学ぶ権利と魂
基本を徹底的に

松永 いま大学野球というのはどこでも授業優先です。チーム全員がそろっている土曜か日曜ぐらいでめったにないわけ。これはこの学校を調べても、そういう事情の中をやっているわけですからOBもそういうことをよく理解してやらなければいけない。

山中 昨年、大幅に改正さ

れた学生野球憲章の中で大きな柱の一つとして、学ぶ権利が強く出されています。その中でいかに対応していくのか、いかに魂を持たせるのか、あるいは指導者として、今の時代の指導者の持つべき課題だと思っています。

五明 2015年に100周年を迎える法政野球部について進言がありましたらお願いします。

松永 日本の野球は、基本を徹底的に鍛えて、その基本の量的な回復、質的な積み重ねの中から精神力を強化していくということが大事なことではないかという気がしています。徹底的に基本をたたき込む。そして選手の名所を見出して伸ばしていく。



山中正竹さん

山中 我々監督経験者は負けたときに厳しいうことを言われるのは当たり前の世界で、



金光興二さん

それは覚悟の上でやらなければいけないわけです。だいたい勝てばほめられることもあるでしょう。そういう勝ち負けの中でみんなの知恵、あるいは一体感、それは単に野球だけではない、学校全体であつたり、OBも含め、そういうものがなくという気運は生まれてこない。

それは駅伝も野球部も法政のスポーツの求心力にならないければならぬと思う。学校も重点強化部にしているわけで、それなりのいろいろな特典も与えられているわけですから、そういう気持ちを持って行ってもらいたいのと思います。

五明 100周年に向かって金光監督のお考えを聞かせて下さい。

金光 昨年の負けた原因をきっちりと分析して、今年にいかにか生かしていくか。今は昔と較べて部員数が非

常になくなってきています。何か目標や目的をきっちりと持たせていないと、ややもすればよそを向いてしまふ。で、きかぬボールに触れる、試合に出る機会を作ることにも必要になってきます。ここが非常に難しい状態になっているのは事実です。

五明 いま自分の頭のなかには昨年1年の戦いはいろいろな意味で今年に向けての課題を監督としてものすごく突きつけられているような感じがします。これを一つひとつきっちりクリアしていくことが、100周年を迎える野球部の復活につながるべくしていくのではないかと考えています。

松永 ぼくは学校の経営とか運営というものはもっと先取りしなければいけないと思うけど、運動部もそうだと思う。これだけ国際化が進んでいる中で、ラグビーなんかは、留学生を使っている大学もある。

これはルールに反する問題ではないんです。もう少し先を見据えた上でどんどん先取りしていっていい方ではないかと思ひます。

五明 それは指導者もそうですし、選手も国際的な時代だからどんどん交流すべきですね。

山中 学生たちが法政の駅伝の4年間がよかったとみんなにそういう思いを持たせる指導者であつてもいいと思います。それが法政スポーツの輝きに必ずつながっていくことだと思います。

松永 すべてこれは指導者さんです。だから学校がどれだけ力を入れて指導者を育成するかということ。これは学校が責任を持つ問題だと思っています。オール法政の中でも附属と大学がばらばらで、気持ちが一になつていないのには驚きます。

今は環境の整備・充実はどうの学校でもやっている。これは学校の義務であり、責任ではないかと思ひます。もう少う法政スポーツに臨んでいったら、法政のスポーツはもっと躍動的になります。

う法政スポーツに臨んでいったら、法政のスポーツはもっと躍動的になります。

五明 卒業させるためには、「文武両道」と言われてもスポーツをやりながら卒業することは難しい。しかしスポーツに関連する学問をして、そして専門学部の勉強もして卒業させることは一番の理想ではないかということ。制度ができて、卒業単位の3分の1、44単位まで取れる制度ができました。

これは体育会学生の質的向上に結びついたのではないかと。もう一つは、強化部指定・特待生制度の確立です。これより長年かかってやっとなら大学の強化部、特待生がスタートしました。いまスタートしたばかりなのでほかの大学(早慶明等)に比べれば相当スタートが遅かったかと思ひます。これから勝負です。

最後に、応援してくれる卒業生40万人の校友の皆さんに、対してのメッセージがあればお願いします。

松永 いま校友の情熱、熱意はすごい。一人ひとりが学校に少しでも恩返ししようという気持ちが表れている。それに学校も各運動部も応えていかなければいけないと思います。

私は現場で育った人間ですから現場主義を全うしてきまして。現場に足を運んで、1日ずつと座って見ていると、その指導者の指導力や指導法、生活、要するに個性的なものが全部わかります。結局、三位一体です。学校全体が一つになって力を合わせてやっていると、いいかなと思います。

山中 私は個人的に、今度の埼玉県法政会友会のオレシジの集いのメッセージに、私は法政大学に「知識と友と自信」という自分の人生の宝を与え

られた。私はこの大学がより光り輝く存在になるために、校友の母校愛の愛と誇りと貢献の三つを広めていく、私流に「オレシジの輪」という言い方をしたいのですが、それを広げていきたいというメッセージを贈らせて頂きました。それが私の校友連合会に対する気持ちです。

五明 これまた一段と校友の絆が深まればいいと思います。最後に金光さんメッセージをお願いします。

強いチームにする
応援をお願いします

金光 私はいま現場の監督です。校友の皆様にお願ひする。校友の皆様は、野球部の活躍は大きなニュースになります。負ければまた大きなニュースになります。そういう意味で注目度が高い。そこであればやはり野球部は強くなければなりません。そういう意味で強いチームにする。それが現場の監督としてやっていたいかなければいけないわけで、強いチームの戦いを神宮球場で見たい。喜んでもらえるようなことを監督としてやっていたいと思ひます。神宮球場に足を運んで頂いて声を掛けて頂ければ野球部員に対する大きな励みになると思うので、お願いをすると思ひます。ういったことだと思ひます。

五明 ありがとうございます。文責 宮本幸彦、原田和夫 構成・写真 伊藤正義

小さな大投手

東京六大学48勝サウスポーの超野球論
歴代最多勝左腕の山中正竹さんの最新刊が出版されました。



支部・団体 だより

福井県法友会

増田総長迎え総会 会員90人集い懇親

引き続き増田総長が「大学の国際戦略について」を学のアイデンティティとは何かのテーマで講演し、130年の歴史を振り返り大学創立の精神を思い起こす。



福井県法友会の平成22年度(第31回)定例総会は8月28日、増田壽男総長をはじめ大学、校友連合会から来賓を迎え、福井市のユアースホテルフクイで開かれた。県内の会員と大学後援会福井支部役員ら合わせて90人が出席し、総会に続き講演が行われた。参加者は法政校友としての連帯感を深め、母校発展を地方から支援する意気込みを確かめあった。

総会では役員改選(任期2年)が行われ、吉田敏貴会長(昭和36年卒)を再選した。

増田総長をお招きして70周年祝賀会を開催

函館支部

法政大学校友連合会函館支部は、昭和15年に創立され、70周年を迎え、去る9月11日(土)、五島軒本店



ご来賓として、増田総長をはじめ、連合会の岩部会長、坂本事務局長、さらに青森、札幌、小樽、苫小牧の各支部の皆様、また地元から西尾函館市長にもご参加いただきました。

富山県校友会

「校友の集い」を開催 役員改選 新会長選出

富山県校友会は、毎年1月第4土曜日に開催し、新会員の紹介の場として、当時の清成総長を講師としてお迎えし、法政大学公開講演会を開催しています。



恒例の記念撮影の後、F Mとやまの田島悠紀子アナウンサー(日13社会卒)の司会により始まった懇親会では、松井新会長の就任の挨拶の後、ご来賓の挨拶に続き、松田前会長に記念品が贈呈された。引き続き初参加となる会員を中心に自己紹介や近況報告などが行われた。なお、今回は右川や福井、さらには、はるばる福岡からも駆け付けた校友に参加いただくと、賑やかな雰囲気の中で交流

松戸支部

秋季懇親会開催 江本孟紀OBを 招いて講演会

松戸支部の秋季懇親会が、昨年10月1日(金)、聖徳大学10号館(松戸市)において卒業生55人が参加のもとに開催されました。



参加者全員による記念撮影の後、廣野貴之支部長の開会挨拶に始まり、川井前松戸市長(65年卒)及び小沢曉民市議会議員(38年卒)、平林俊彦市議会議員(40年卒)から力強い挨拶をいただきました。

酒田支部

青年グループの会を設置 支部の活性化と充実を図る

酒田支部は、昭和34年法

鎌倉法友会

地引網会を開催 久し振りの大漁

【5面へ続く】

シリーズ 支部紹介 第10回

岡山県支部

第7回全国大会を開催 会員増強を積極的におこなう

《支部のあゆみ》
我が岡山県支部は、明治32年8月に、関西支部の一支部岡山県としてスタートしたようです。

岡山県支部活動は、以前から活発に行われていたようですが、川部前々支部長(故人)の時期に、県内の活動を整理し、岡友会岡山(45歳以下)の



支部総会を開催 -平成22年7月3日-

メンバーで構成し、『倉敷法友クラブ』(倉敷地区会員の会)を発足させ、岡山県支部の活動が益々活発に行われるようになり、平成10年に岡山で開催した第7回法政大学校友会全国大会では、岡山県支部の会員が実行委員として携わり、全国大会を成功させたことで、支部の運営に自信が持て、会員の結束がより深まりました。

平成14年には、現在の第一土曜日に開催しております。新年互例会は、

目標を達成する為の信念の持ち方や逆境を乗り越えるための心構えなどを講演いただきました。

平成22年11月6日(土)、富山市のANAクラウンプラザホテル富山において、「平成22年度校友の集い」が開催された。当日は法政大学から山中正竹特任教授及び浅野広人総務部付卒業生連携室課長補佐、法政大校友連合会から井上茂秋副会長、坂本順子事務局長、福井県法友会から清水文雄幹事長、さらに法政大学後援会富山県支部から東田邦利副支部長はじめ3人の役員など多数のご来賓を含む総勢150人の参加のもとに盛大に行われた。

最初に、山中先生から「今、監督力が問われる」と題した講演をいただいたが、今回は、公開講演会と題したため校友のみならず、野球関係者や一般参加者も多数参加し、山中先生の貴重な話に耳を傾けた。

講演に引き続き、総会において、会務及び会計報告とともに、今後の事業計画として校友だよりやホームページ作成を進めていく事などが承認された。また、さらなる運営体制の充実を図るため会長代行やプロック長の新設と執行役員会を置く事や、会計年度を4月から3月までにする事等を盛り込んだ会則の全面改正が承認された。さらに、3期6年の永きにわたり会長として当会の発展に尽力された松田善正氏(32法卒)が勇退されることに伴い、新会長に松井幹夫氏(39法卒)を、会長代行に吉田義夫氏(39経済卒)を充てる等役員改選も行われた。

恒例の記念撮影の後、F Mとやまの田島悠紀子アナウンサー(日13社会卒)の司会により始まった懇親会では、松井新会長の就任の挨拶の後、ご来賓の挨拶に続き、松田前会長に記念品が贈呈された。引き続き初参加となる会員を中心に自己紹介や近況報告などが行われた。なお、今回は右川や福井、さらには、はるばる福岡からも駆け付けた校友に参加いただくと、賑やかな雰囲気の中で交流

初めて参加された新規会員の自己紹介が行われ、仲間からの温かい声援を受けました。

中締めは弓木田副支部長により行われ、最後は、昨

は、支部役員の任期改訂・役員補充選任の議案と本総会の重要議案である「青年グループの会」を設置する趣旨説明が白根支部長よりあって、出席者による意見交換がおこなわれました。今後毎年新会員を迎えるについて、支部の体制づくりと若い会員の活力を支部活動のなかに反映させてゆく上での大切な役割を担っていることを全員が認識を致しました。青年グループの輪が広く大きくなり、良質な活動が出来れば、目指す法政大学の校格向上であり、有意義な社会活動にも結びついてゆくものと期待されます。総会では、このグループの2人の代表者を選任致しました。土田聡子さん(平成8年文・英卒)渡り、「よき師よき友 集ひ結べり」の心地よい余韻のなかで秋季懇親会は閉会しました。

(幹事長 佐野利雄)

介があつて、橋本明宗副支部長が新会員を歓迎する挨拶をおこない、なごやかな会ながら法政大学校歌斉唱では大いに盛り上がりました。

母校への想いを新たに、母校の発展を出席者全員で祈念致しました。

(支部長 白根 晃)

【4面より続く】

秋日和に恵まれた昨年10月17日、辻堂海岸(湘南)に場所を移しての開催となり、72人の方々が砂浜に集まりました。岸から1kmほど沖まで延ばした網を、途中までは機械でひいて、砂まみれになりながら力を合



が笑顔で出迎えてくれた。5時過ぎに出港した屋形船は、会長挨拶から始まって校友連合本部、鎌倉支部やさくら会などから参加した仲間からエールを贈られた。仲間に上島さんの音頭で乾杯。揚げたての天ぷらや新鮮なお刺身に満足。そしてお待ちかねのカラオケタイムに。横浜在住の演歌歌手浜ゆたかさん(法政OB)の司会で、彼の持ち歌「おもいで」のレインボーブリッジ」も唄われて、宴会は最高潮に。夕闇迫る頃、船は横浜港を一周する。暮れなずむ西の彼方には富士山も望まれ、素晴らしい港の風景に参加者一同大満足。最後は恒例によって校歌の大会唱。来年の再会を誓っての散会となりました。

(関口正俊)

わせて、ひき上げました。シラス、カマス、鯖が樽に2杯ずつ、イナダが3匹、あおりイカ、甲イカまで入り大漁でした。お刺身、生シラス、焼き魚、てんぷら、焼きそばと存分に賞味いたしました。江ノ島を背景に「飲んで食べて」の一日になりました。

横浜支部

納涼屋形船遊覧の集いー夕暮れの横浜港をー

昨年7月17日、横浜支部恒例の納涼屋形船横浜港遊覧の集いが行われた。この日夕刻に桜木町駅近くの乗船場に参集したのは41人の会員と家族。お馴染みになっ

ての校友の会です。初代会長に、渡邊光夫(経卒)、顧問には藤平輝夫勝浦市長(法卒)、太田洋夷隅市長(経卒)を選出しました。



総会後の懇親会では、話



外房法友会

設立総会を開催旧茂原支部に三地域が加わる

平成22年10月2日、茂原市の「割烹一茂」にて「外房法友会」設立総会を開催しました。外房法友会は、旧茂原支部に勝浦市、いすみ市、夷隅郡を加えた地域

田谷区の真ん中を闊歩する」として、河野支部長を初め鎌倉法友会山川久美会長の参加も戴き、9人によって開催致しました。

東急田園都市線「駒澤大学」駅に集合し10時過ぎにスタート、先ず芸術の秋に相応しい世田谷美術館分館の向井潤吉アトリエ館を訪問。向井画伯の初期ルーヴル美術館の模写作品を鑑賞。次いでこの修練の成果というべき「日本の民家」を題材とした作品を鑑賞しました。



総会後の懇親会では、話

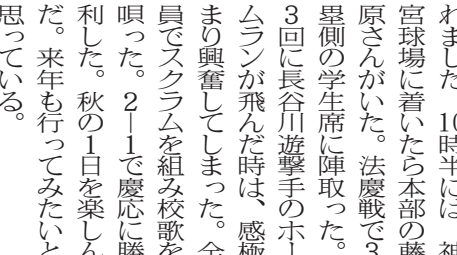
世田谷支部

第3回名所・旧跡巡り世田谷代官屋敷他

昨年10月24日(日)「世

が、10月は世田谷寄席など行事と行事の間が無く、当日の欠席者が数名居り、役員一同反省しております。

東急田園都市線「駒澤大学」駅に集合し10時過ぎにスタート、先ず芸術の秋に相応しい世田谷美術館分館の向井潤吉アトリエ館を訪問。向井画伯の初期ルーヴル美術館の模写作品を鑑賞。次いでこの修練の成果というべき「日本の民家」を題材とした作品を鑑賞しました。



総会後の懇親会では、話

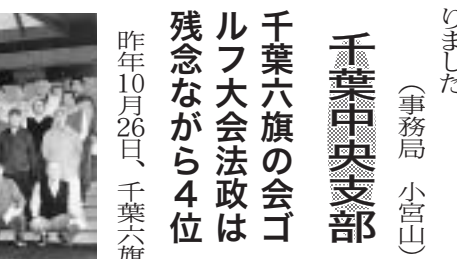
世田谷支部

第3回名所・旧跡巡り世田谷代官屋敷他

昨年10月24日(日)「世

しました。当日は、天気にも恵まれ、現地で金子氏に案内をお願いし、図書館・教

室・体育館・グラウンドと、見学いたしました。敷地の広大さ、設備の充実と、ただ感嘆するばかりでした。帰途、ホテルサンライต์新宿にて、懇親会を行い今後現役学生諸君のより一層の活躍を期待し、解散となりました。



総会後の懇親会では、話

世田谷支部

第3回名所・旧跡巡り世田谷代官屋敷他

昨年10月24日(日)「世

のことで腕を競った。成績は以下の通りとなった。

この大会で寄付を募り、12万円の浄財を千葉日報福祉事業団に寄付した。このことは、10月30日付けの千葉日報に掲載された。



総会後の懇親会では、話

世田谷支部

第3回名所・旧跡巡り世田谷代官屋敷他

昨年10月24日(日)「世

進めた。箱根の杉並木を通り恩賜公園を見学、関所を通過、箱根駅伝ミュージアムに着いた。ミュージアムの入り口にはまだ母校の旗、法政オレンジが風にはためいていた。今回は法政が駅伝に参加出来ないのが残念に思った。

今年度は東京大学の幹事で開催されますが、参加希望の千葉県及び近県の方は、千葉中央支部まで連絡を下さい。



総会後の懇親会では、話

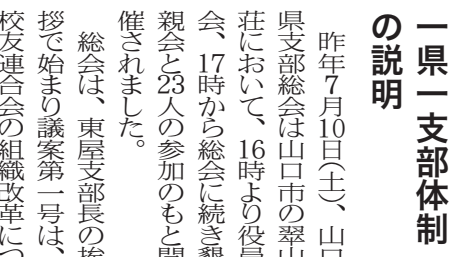
世田谷支部

第3回名所・旧跡巡り世田谷代官屋敷他

昨年10月24日(日)「世

えない風情のある眺めである。江戸切子館、大横川親水公園を通過して、いよいよタワーが目に見えてきたが、凄じ建物！だなど感嘆した。現在の高さが497m位で、アンテナの取り付け準備中。このあたりは北十間川が流れており、川の補修工事も進んでおり、この川とタワーのコントラストは素晴らしいものとなるだろう。

この後、隅田川を渡り浅草に入り、はとバスツアーで有名な天ぷら料理屋「葵丸進」で懇親会となった。



総会後の懇親会では、話

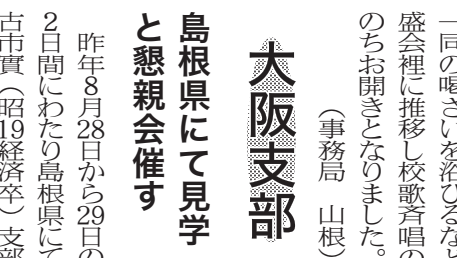
世田谷支部

第3回名所・旧跡巡り世田谷代官屋敷他

昨年10月24日(日)「世

会は終了しました。記念撮影のうち、懇親会が18時よりスタート。

今年度の県支部総会の引き受けである山口支部の斎藤支部長の絶妙な司会により、初参加のメンバーの人



総会後の懇親会では、話

世田谷支部

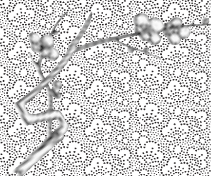
第3回名所・旧跡巡り世田谷代官屋敷他

昨年10月24日(日)「世

【8面に続く】

卒業生の皆様本年もよろしくおねがいします

新年



法政大学 増田 壽男 増田 壽男 法政大学総長・理事長	法政大学校友連合会北海道支部連合会 支部長 伊藤 信賢 法学部1944年卒	法政大学校友連合会横浜支部 支部長 永崎 秀一郎 経済学部1957年卒	法政大学校友連合会目黒支部 支部長 山下 時博 経済学部1959年卒	社会学部同窓会 会長 中山 重臣 社会学部1961年卒
法政大学校友連合会会長 岩部 金吾 岩部 金吾 法政大学校友連合会会長	法政大学校友連合会大阪支部 支部長 古市 實 経済学部1944年卒	法政大学経済学部同窓会副会長 法政大学校友連合会事業部会 藤原 速夫 経済学部1957年卒	法政大学校友連合会広島支部 支部長 打越 勲 経済学部1960年卒	法政大学評議員 神沼 邦彦 経済学部1963年卒
法政大学後援会会長 池邊 裕 池邊 裕 法政大学後援会会長	法政大学校友連合会千代田支部 支部長 角田 実 経済学部1951年卒	法政大学校友連合会全京都支部 支部長 井上 秋男 経済学部1958年卒	曙ブレーキ工業株式会社 相談役 桑野 秀光 法学部1960年卒	法政大学校友連合会秋田支部 支部長 酒井 久範 経済学部1963年卒
法政大学 理事 岡田 安弘 岡田 安弘 法政大学	法政大学校友連合会台東支部 支部長 中川 愼 経済学部1952年卒	法政大学校友連合会板橋支部 支部長 市川 泰成 工学部1958年卒	法政大学評議員 佐々木 貞夫 経済学部1960年卒	法政大学校友連合会 理事 西岡 憲廣 法学部1963年卒
法政大学 理事 河瑞 照孝 河瑞 照孝 法政大学	法政大学校友連合会顧問 法政大学校友会名譽顧問 アメリカンフットボール部OB・OG会 名譽会長 大石 勝康 経済学部1953年卒	開成工業株式会社 取締役社長 水上 恒夫 経済学部1958年卒	結成四十五年 法政大学工学部同窓会 会長 佐藤 敏夫 工学部1960年卒	法政財界人倶楽部 常任理事 法政大学校友連合会西松建設法友会 会長 石橋 直 経営学部1964年卒
法政大学 理事 古澤 壽輔 古澤 壽輔 法政大学	法政大学駅伝友の会 会長 山口 光弘 経済学部1953年卒	法政大学校友連合会中野支部 支部長 安藤 通久 法学部1959年卒	法政大学校友連合会沖縄県支部 支部長 宮里 昭也 法学部1960年卒	法政大学校友連合会埼玉県法友会 理事長 大井 己喜彦 経済学部1964年卒
法政大学理事 BOATRACE振興会 常務理事 船越 眞 船越 眞 法政大学理事	法政財界人倶楽部 会長 大島 雄次 大学院1954年卒	法政大学評議員 法政大学校友連合会福岡支部 顧問 生川 之雄 経済学部1959年卒	法政大学校友連合会滋賀支部 支部長 金井 一 法学部1961年卒	法政大学校友連合会埼玉県法友会 事務局長 横田 茂 経済学部1964年卒
法政大学 監事 森脇 英裕 森脇 英裕 法政大学	法政大学校友連合会江東法友会 会長 高橋 修平 経済学部1954年卒	法政大学校友連合会山口県宇部支部 支部長 國吉 正和 経済学部1959年卒	法政大学校友連合会会津支部 支部長 木村 昇 経済学部1961年卒	法政大学校友連合会宮崎県支部 支部長 川越 悦生 法学部1964年卒
法政大学 監事 倉持 正 倉持 正 法政大学	法政大学校友連合会江東法友会 監事 桑野 隆治郎 経済学部1956年卒	法政大学校友連合会佐賀県支部 支部長 富崎 一己 経済学部1959年卒	法政大学校友連合会会松戸支部 支部長 廣野 貴之 経済学部1961年卒	法政大学校友連合会山梨県支部 支部長 樋泉 智男 社会学部1964年卒
齋藤法律事務所 弁護士 齊藤 友嘉 齊藤 友嘉 齋藤法律事務所	法政大学経済学部同窓会 会長 辻田 実 経済学部1956年卒	法政大学校友連合会熊本県八代支部 支部長 宮川 誠也 経済学部1959年卒	法政大学校友連合会福井県法友会 会長 吉田 敏貢 経済学部1961年卒	法政大学評議員 法政大学富山県校友会 会長 松井 幹夫 法学部1964年卒

卒年順

リーディング・ユニバーシティ							
謹 賀							
東京法政ライオンズクラブ 会員一同	法政大学校友連合会 アメリカンフットボール部OBOG会 会長 安藤秀樹	法政大学校友会ボクシング部法友会 社会学部1965年卒	法政大学校友連合会福島支部 校友連合会 理事 福島支部支部長 福島連合会 会長 佐藤平治 法学部1965年卒	法政大学校友連合会江東法友会 会長 阿部 鞏 工学部1966年卒	株式会社新潟放送代表取締役社長 法政大学校友連合会新潟支部 支部長 竹石松次 社会学部1966年卒	法政大学校友連合会山形支部 支部長 千葉 一宇 経営学部1966年卒	法政大学校友連合会埼玉県法友会 会長 中村靖治 社会学部1966年卒
法政大学校友会空手部拳友会 法学部1967年卒	法政大学評議員 法政大学校友連合会大阪支部 会長 柳田文雄 経済学部1967年	工学部1967年卒	法政大学校友連合会宮城支部 支部長 三浦 徹 経済学部1967年卒	法政大学校友連合会 理事 佐藤栄伸 経済学部1968年卒	法政大学校友連合会 日通オレンジ会 支部長 伊藤康生 社会学部1969年卒	法政大学校友会香川県支部 支部長 詫間敬芳 経済学部1969年卒	法友体育会 (法政大学体育会OB・OGの会) 会長 五明公男 法学部1969年卒
法政大学校友連合会青森支部 支部長 對馬忠雄 法学部1967年卒	法政大学校友連合会静岡支部 支部長 西村晴道 工学部1970年卒	体育会自動車部OB会 会長 臼田篤志 法学部1970年卒	NPO法人 人材創造フォーラム 理事・事務局長 佐々木郁夫 経営学部1970年卒	法政二高同窓会 同窓会会長 品田秀行 経営学部1971年卒	法政大学校友連合会福岡支部 支部長 松尾幸靜 文学部1971年卒	法政大学評議員 長嶋克佳 工学部1972年卒	法政大学校友連合会江東法友会理事 株式会社 デイ・エム広告社 代表取締役 藤本順一 工学部1973年卒
法政大学校友連合会茨城県支部 理事・支部長 宮本 繁樹 副支部長 木村 眞 副支部長 吉野 三郎	法政大学評議員 法政大学校友連合会副会長 鹿山秀佳 社会学部1959年卒	法政大学高等学校同窓会会長 東京紙商法友会会長 法政大学校友連合会副会長 岩村元雄 経済学部1960年卒	法政大学校友連合会 副会長 井上茂秋 法学部1965年卒	法政大学校友連合会 副会長 高村嘉昭 経済学部1970年卒	法政大学校友連合会 監事 中島和晃 法学部1951年卒	法政大学校友連合会外房支部長 法政大学校友連合会 監事 渡邊光夫 経済学部1958年卒	法政大学校友連合会 監事 高木功治 経営学部1994年卒
法政大学 卒業生連携室 一同	法政大学 部長 惠良郁文 法学部1965年卒						

あけましておめでとうございます
2011年 元旦

法政大学校友連合会
総務部会 組織部会 財務部会
広報部会 事業部会



ひとつの情報 多彩に活用
株式会社 きかんし

【本社】 105-0003 東京都江東区辰巳2-8-21
TEL 03-5534-1234(代) FAX 03-5534-1235
〈URL〉http://www.kikanshi.co.jp

【法政OB】
常 務 取 締 役 島村 和良(社会学部 75卒)
取締役営業部長 夏目 安男(経済学部 72卒)
ソリューション事業部長 小林 昭夫(工学部 77卒)

氏と関谷甲夫氏にそれぞれ、功労賞が贈られた。両氏とも母校卒業後、50年以上の間、コーチングに加えてマネジメント能力を発揮し、甲子園ボウル常連校の礎を築いた。

法学部同窓会

在学生と卒業生の集いを開催

平成23年3月24日の大学卒業式、学位授与式にあわせて毎年、法学部教授会の後援を得てボアソナードタワー地下1階の食堂にて卒業祝賀会を開催しております。毎年500人を超える参加者があり、OB、OGそして大学教職員が卒業生に祝辞と激励の言葉を贈っています。



七福神巡りと卒業祝賀会

松の内があける1月8日(土)、今回で8回目となる経友会主催の七福神巡りが行われます。今年は巡拝所が全て神社で占められ、回る時間も比較的短い日本橋七福神を訪ねます。



完成予想イメージ

地下鉄半蔵門線水天宮駅5番出口に9時集合。参拝が終わると「銀座キャピタルホテル」で新年会が開かれ、恒例のラフォーレ大会で盛り上がりまします。多くの方々の参加をお待ちしております。

特筆すべきは、大学のキャリアセンター後援の「在学生と卒業生の集い」を年2回開催し、掲載写真のように在学生のために直近の卒業OB、ベテランOBも参加しています。

かように催事でわかるように法学部同窓会は、在学生のために何をなしているかを目的として運営されているといっても過言ではありません。

尚、本紙面を通じ、理事を募集します。地方の方も理事として応募して下さい。地方の方は年1回の定期総会の出席をしていただければよいです。理事会の議事録、大学出版の小冊誌も送りますので、同窓会の活動が遠方においても認識出来ます。



同窓会関係者が参加して市ヶ谷キャンパスで経済学部卒業祝賀会が行われるこの会では、同窓会から成績優秀者の表彰と留学生への記念品贈呈が行われます。

連絡先
TEL 03(5262)7371
FAX 03(5262)7455
メール info@hosei-hogakai.jp
hosei-hogakai.jp
(事務局 山崎正俊)

工学部同窓会

新校舎の進捗状況と創生科学科誕生

小金井キャンパスでは、2007年度から始まった再開発の工事も順調に進んでおり、2008年に完成した東館に引続きいよいよ北館も2011年4月に竣工予定です。

文学部同窓会

旧白洲邸の武相荘見学

昨年11月6日の快晴の土曜日、文学部同窓会では特別企画として、町田・鶴川の武相荘を見学した。22人の参加を得て一行は、まず香山園脇の竹林内の通路を経て氏神の能ヶ谷神社へ。数百段の階段上の本殿から周辺の眺めは抜群。武相荘では白洲次郎・正子夫妻が昭和18年頃から、晩年まで過ごした痕跡が残されており、正子夫人の集めた焼き物や骨董品等が所狭しと並べられ、往時が偲ばれた。武相荘見学後は、駅前にて14人で打ち上げを行い、皆さん満足げの様子であった。



建築者のクローバレイシヨン化が進展する中での巨大プロジェクトの都市開発や、東京ミッドタウン・汐留再開発プロジェクトマネージャーとして手掛けた日本の都市開発などについて、豊富な実務経験をもとに経営学的観点から約1時間わたって熱弁を奮われました。

◎卒業生成績優秀者表彰
3月下旬、卒業式のと、成績優秀者に鈴木俊昭同窓会会長より成績優秀者に記念品の授与を行います。

経営学部同窓会

15周年記念トップマネジメントセミナー

1995年に設立総会が開催されてから15年を迎えたのを記念し「設立15周年記念トップマネジメントセミナー」(経営学部同窓会・法政大学経営学部学術セ

ミナール委員会共催)を昨年11月にボアソナードタワー26階スカイホールで開催しました。巨大都市開発の著名な建築家ニック中村さんが「建

と題して、昨年10月20日(水)社会・経済・現代福祉各学部同窓会主催、多摩キャンパス4学部教授会、多摩キャリアセンターの後援で、経済学部棟102教室に120人が参加し、食堂へ移動しての親身な同窓会役員も加わった懇親会も開催された。

運営当番の社会学部同窓会から総合司会に北條利男副会長で進行し、中山重臣会長の「就職戦線厳しい中

高等学校同窓会

クラブOB会代表との懇談会

10月30日(土)に表記懇談会が開催されました。クラブOB会代表は硬式野球部・三上、ラグビー部・木村、山岳部・川尻、バスケット部・高津、フラスバンド会・吉田、アイスホッケー部・小松、久保木、サッカー部・川合、応援団・萩原、映画研究会・阿川の各氏。

同窓会からは岩村会長以下役員一同。以上の出席でした。

二高同窓会

台風に負けず二高祭開催

昨年10月30日(土)・31日(日)の両日、母校にて平成22年度二高祭が開催されました。

昨年度は新型インフルエンザのため一部生徒が企画に参加できない等、逆境の中での開催でしたが、今年度も台風が接近する中の開催となった関係で、1日目が午前中で終了することとなり、2年連続で逆境の中での開催でした。

法政女子同窓会

20年後の生麦坂への先輩の想い

毎年3月の初旬、女子高の卒業式が行われる。私はこの逆境の中でも大いにその個々の力を発揮して、歴

ます。年毎に卒業式の雰囲気微妙に違う事は興味深いものがあります。今日、母校を巣立たんとする生徒達と対面する形で、学校長・大学の理事・PTA会長さんと共に並んで座り、一人一人担任の先生に名前を呼ばれ「ハイ」「はい」「はい」と返事を返して立ち上がる緊張した生徒達の顔はやっぱ紺の制服がよく似合う法女生の顔です。



代の二高祭の中でも特に印象深い二高祭の一つとなりました。

同窓会では例年、法政二高同窓会グッズの販売を実施していますが、今年度は新たに「法政二高同窓会特製マフラータオル」と、母校の校章を中央にあしらった「道楽焼き」がグッズに加わり、二高祭の新名物としてその存在感を示しました。

これらグッズ販売を通じて、今後二高祭に多くの方々がおいで下さり、更に盛り上げられようと思っております。

法政二高同窓会に関する詳しい情報や最新の情報は、同窓会ホームページ上(www.hosei2ob.com)をご覧ください。

(会長 品田秀行)

編集・企画・構成 原田和夫 高根典文、矢田義徳 相川欣運、筈原榮作、古敷谷信房

新生柔道部復活 創部は大正8年

一同、ご期待に応えるべく
心を新たにしているところ
であります。



男女ペアの 優勝に向けて

男女への
優勝に向けて
弓道部は1
922年（大
正11年）に創
部されまし
た。1968
年（昭和43
年）の正部
体育会の正部
となり、19
70年（昭和
45年）に
座決定戦12回、全日本学生
弓道選手権大会8回、全国
大学選抜大会7回、全関東
学生弓道選手権12回、東京
都1部リーグ12回の優勝を
成し遂げています。また強
豪がひしめく東京都学生リ
ーグにおいては、1972年
（昭和47年）1部昇格以
来、38年間一度も降格する
ことなく最長在籍記録を更

た。これでいよいよ男女揃った。この全日本王座決定選手権出場、男女アベック優勝に向けて大きく前進しました。今後も「王道は法政が強い！」と言われ続けるよう、指導陣と部員が「一丸となって戦っていきますので、大学からのサポートもよろしくお願いいたします。」

監督・加瀬洋光

90年の伝統
昔は敵なし

大正10年創部、まもなく90周年を迎える伝統のある部です。貸与馬での競技が主流の頃は向かうところ敵なしの実力を誇っていました。近年自馬を主とする競技に変わり少々苦戦して

いる状況です。

しかし、第51回全日本学生障害飛越競技大会においては、当部の女性部員が全日本大会初の女性の優勝と

言う快挙を挙げる等、全日本馬術大会でも着実に好成



績を積み重ねております。昨年、団体競技においても争覇戦で二部リーグ優勝

を果たしたので、今年は一部リーグでの優勝を目指し練習に励んでいます。

また、競技会のみではなく夏には小学生の乗馬教室を開いたり、東京都の国体開催を見据え、都立高校の先生への馬術指導を行ったりと、乗馬の普及活動にも貢献しています。

今後も、競技会で好成績を上げるため練習に励むとともに、新入部員の勧誘にも



もっと力を入れ、多方面での活躍が出来る様頑張る所存です

監督・鈴木 孝

第9回総長杯
オール法政ゴルフ大会

“よき師より友集い結び”を大会スローガンに平成22年9月6日(月)、盛大に開催された。会場となったのはキングフィールズ広げた。

ゴルフクラブ。石川遼や横峰さくらなどが出場する3ツアーズチャンピオンシップ(12月)、日本女子プロゴルフ選手権(平成23年9月)が開催されるメジャーツアーが、酷暑を制しての優勝は岡本恒雄さん(ラクビーOBクラブ、クロス80、ネット70・4)。水分補給と隠しホールを読み切ったスコアメイクは見事!といった

第18回全国卒業生の集い
青森ゴルフ大会
出ましたホールイン

全国卒業生の集い初日
(10月8日)、青森市郊外の
青森カントリー倶楽部で、
全国から参加した32人が日
頃の腕を競った。当日は快
晴・無風の絶好のコンディ
ション。遠くには紅葉の八甲
田山、眼下に青森市街と波
穏やかな碧いむつ湾を望
み、コースの途中にはリン
ゴの実のなった木があるな
ど青森らしい自然豊かなコ

「フで楽しい一日を過ごした。この日はなんと卒業生

ロナミンCをそれぞれ一年分とか。競技終了後表彰式は同クラブハウスで行われ、岩部金吾会長より挨拶と賞品授与がなされ、ホールインワンを始めたとした今日のプレイに話はずんだ。

（青森県支部幹事長 田名辺 収）

81年法卒

ホールインワンに動転

十和田コース 4番ホール109ヤードピッチングを9番アイアンに持ち替え、池に入れたくないのとがっかりし、ボールの飛

また今大会に協賛の景品をご提供下さいましたヨネックス（株）様に紙面をお借りして御礼申し上げます。

思いだけで打ちました。同行の3人が「これは入るのでは…」との声に、「池か」

んだ先も確認せずティーを拾った。その時主人が大声で入ったと騒ぎ、初めてカップに吸い込まれた事に気づきました。動転して何がなんだか分からないままブレイが終わりました。全国ゴルフ場へ行ける法政大学のゴルフコンペを毎回楽しみにしております。

（秋元邦子）

企画・構成 原田和夫

ホールインワンに動転

十和田コース 4番ホール
1009ヤードピッチング
を9番アイアンに持ち替
え、池に入れたくないと
思いだけで打ちました。同
行の3人が「これは入るの
では」との声に、「池か
とがっかりし、ボールの飛

企画・構成 原田和夫



2010年10月8日(金)
第18回法政大学全国卒業生の集い青森大会

2.新ペリア オフィシャルHD使用しない HD使用率100%
ハンディ上限男性[36.00] 女性[36.00] 上限を3オーバー迄とする
同一ネットの優先順位[年齢別 ハンディ別]

順位	氏 名	所属支部	むつ湾 コース	十和田 コース	トータル	HDCP	ネット
優 勝	藤田 昌人	八戸	45	47	92	20.40	71.60
準優勝	前澤 栄	川崎	48	51	99	26.40	72.60
3 位	阪東 吉彦	和歌山	49	49	98	25.20	72.80
4 位	高橋 順弘	山形	41	46	87	13.20	73.80
5 位	石橋 直	西松建設法友会	44	43	87	12.00	75.00
6 位	森脇 英裕	大学監事	41	44	85	9.60	75.40
7 位	秋元 正幸	筑豊	49	47	96	20.40	75.60
8 位	横山 公英	筑森	42	42	84	8.40	75.60 BG賞
9 位	荒武 蓮	鹿児島	48	46	94	18.00	76.00

第18回 青森大会

法政大学全国卒業生の集い



取材・文・写真：田名辺収運営委員長
企画：宮本幸彦、原田和夫、坂本順子

大会式典

昨年12月の東北新幹線の八戸・新青森が開業するのを控え、街全体が活気に満ちあふれていた青森市で、母校の限らない発展を願う卒業生の強い連帯感を青森の地で深め、まじょうを大会スローガンに「第18回法政大学全国卒業生の集い」がホテル青森で、岩部校友連合会会長、増田法政大学総長、池邊後援会会長、三村青森県知事などを始め北は北海道から南は九州まで全国から470人強が出席し10月8日から10日までの3日間盛大に行われました。

大会実行委員長あいさつ
對馬青森県支部長



鮮やかな紅葉に彩られた青森市に全国から470人強の校友、関係者が参加した。式典に先立ち、法政大学アカデミー合唱団OB会による合唱披露が行われ、学生時代と変わらぬ美声で歓迎。各テーブルには大会マークで包まれた真っ赤なリングが置かれ、青森らしさを演出。司会者は青森放送の青山英次アナウンサー(98年経営卒)の進行で、中村公英大会実行副委員長の開会宣言に続き、校歌斉唱、物故者追悼の黙祷で厳に開幕。主催の岩部金吾大会会長、主幹の對馬忠雄大会実行委員長の歓迎挨拶に始ま

大会宣言

我々法政大学校友は、「第18回法政大学全国卒業生の集い青森大会」開催に当たり、大学、後援会、校友連合会の強力な連帯のもと、校歌に謳われる師と友の結びつき、進取の気性・質実の風を实践することにより、社会のリーダーとなり、母校の校格のさらなる向上を目指し、次の通り宣言する。

- 一、我々校友は、「自由と進歩」の法政大学建学の精神を受け継ぎ、自由な発想と積極的な行動により、新しい伝統を創造し続けることを誓う。
- 一、我々校友は、21世紀の難局を打開する、自立性や豊かな人間性を備えた、社会のリーダーたることを誓う。
- 一、我々校友は、法政大学校友連合会憲章の理念による卒業生の強力な連帯と支援により、社会貢献を通じ、母校の校格のさらなる向上を目指すことを誓う。

平成22年10月9日
第18回法政大学全国卒業生の集い青森大会
実行副委員長 西野陽一



青森県郷土芸能・八戸えんぶり

休憩を挟み、記念講演は遺跡の発掘に当初から関わり、文化庁で研究を深めたミスター三内丸山こと岡田康博青森県教育庁文化財保護課長による「三内丸山縄文の扉を開く」が行われた。遺跡の発掘調査の

次回開催地あいさつ
荒武連鹿兒島県支部長

り、来賓の挨拶は、鹿内博青森市長、増田壽男総長、池邊裕後援会長と祝辞が述べら

記念講演

れた。西野陽一大会実行副委員長により法政大学建学の精神と校友連合会憲章の理念に則った大会宣言が力強く発表され、満場の拍手で応えられた。次回開催地が岩部会長より鹿兒島と発

表され荒武連鹿兒島県支部長と役員が紹介され、拍手のなか大会旗が青森から鹿兒島に授受された。なお、鹿兒島大会は10月21日に記念ゴルフ大会(南国カントリークラブ)22日に大会式典

懇親会

様子や復元された建物群、出土した土器や土偶、石器などのスライドによる説明は興味深く、縄文時代のロマンへと引き込まれた。青森県内には国宝に指定された人も多かった。

勇壮なねぶた囃子とともに登場した2010年ミスのねぶたグランプリ渡邊愛佳さん(法政大4年生)の所々に津軽弁を混ぜた歓迎挨拶により開幕。三村申吾青森県知事によるユーモアあふれる来賓祝辞に続き、鹿兒島県支部長による次回大会の宣伝と乾杯で開宴。



左から三村青森県知事、2010年ミスねぶたグランプリ渡邊さん、増田総長、岩部会長

HOSEI

2011年 オール法政新年を祝う会

日時：2011年(平成23年)1月15日(土)
開宴13:00(受付開始11:30~)
会場：グランドプリンスホテル赤坂
東京都千代田区紀尾井町1-2
TEL03-3264-1831
FAX03-3264-4770
FAX03-3234-1111
会費：10,000円(家族・同伴者も同額)
*特別ゲスト 小柳ルミ子さん
*お申し込み・お問い合わせは...
校友連合会事務局へお尋ねください。
TEL03-3264-1831
FAX03-3264-4770
主催：法政大学 校友連合会

年末年始の休日
平成22年12月25日(土)から23年1月7日(金)まで。
校友連合会事務局



会場に飾られたミニねぶた



計報

山川久美さん(やまかわくみ・鎌倉法友会会長)平成22年11月10日死去、71歳。(59年法・法卒)

編集後記

法政スポーツの華というのは六大学野球である。長い歴史の中で、法政は他を抑えて最多優勝回数を誇っている。今回「歴代野球部監督座談会」を企画したところ、歴史に残る圧倒的な存在感の方々に集まりたいで、過去・現在・未来と縦横に語ってもらった。スポーツに限らず法政出身者は様々な分野で活躍し社会貢献を果たしている。そうした人達を紹介し、法政の絆を広めることが広報部会の役割だと思っている。今回、病気を患ってまわりの方々に迷惑をかけてしまったが、広報部会は一致協力し新年号の発行を実現した。寄稿者、連携室、事務局など多数の関係者に感謝をささげつつ。鹿山秀佳